

# 平成 30 年第 9 回沖縄県教育委員会会議（定例会）議事録

## 1 開会及び閉会に関する事項

平成 30 年 8 月 16 日 午後 3 時開会  
午後 4 時 33 分閉会

## 2 出席者及び欠席委員の氏名

### (1) 出席者

教育長 平敷 昭人 委員 喜友名 朝春 委員 玉城 きみ子  
委員 松本 廣嗣 委員 照屋 尚子 委員 上原 勝晴

### (2) 欠席委員

なし

## 3 説明のため会議に出席した職員の職氏名

教育管理統括監	宜野座 葵	参 事	親泊 信一郎
参 事	當間 正和	総務課長	識名 敦
教育支援課長	佐次田 薫	施設課長	賀数 朝正
学校人事課長	古堅 圭一	県立学校教育課長	半嶺 満
義務教育課長	宇江城 詮	保健体育課長	平良 朝治
生涯学習振興課長	城田 久嗣	文化財課長	濱口 寿夫
小中学校人事管理監	大嶺 悟		

## 4 議事関係

### (1) 開会

平敷教育長が開会を宣告した。

開会后、平成 30 年 7 月 15 日付けで委員に就任した上原勝晴委員が就任挨拶を行った。

#### 【上原委員就任挨拶】

こんにちは。只今教育長からご紹介をいただきました上原勝晴と申します。7月17日に教育委員の辞令をいただきました。その時に委員としての職責の重大さを感じまして、身の引き締まる思いをしているところでございます。その後、8月1日に全国高文祭、中文祭派遣の生徒の激励壮行会がございまして、その発表の場を見まして、子供達がたくましく育っていること、次の時代を担う子供達がすくすくと成長しているということを強く感じたところであります。本県教育の目標、それから沖縄21世紀ビジョン等々を踏まえながら、幼児期の教育から社会教育、生涯学習の教育に渡って、色々と取組をしていけたらと思っております。全力で職務を全うしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

### (2) 非公開の決定及び議事日程の決定

議案第1号、第2号及び第3号は人事に関する案件であることから、地方教育行政の組織

及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 14 条第 7 項の規定により非公開とすることが全会一致で決定された。また、議事日程は会議資料記載の日程案のとおりすることが決定された。

(3) 平成 30 年第 8 回議事録の承認

全会一致で、平成 30 年第 8 回議事録を承認した。

(4) 議事録署名人の指名

平敷教育長が、上原委員を議事録署名人に指名した。

(5) 報告事項

報告事項 1 平成 31 年度沖縄県立高等学校入学定員

【説明（県立学校教育課長）】

資料に基づき、平成 31 年度沖縄県立高等学校入学定員について報告を行った。

【質疑等】

- 教育長 伊良部高校については、先立って募集停止の件をこちらでご説明させていただいたところでございます。
- 教育長 基本的には生徒数の状況を踏まえてということですね。あとは大規模の所を少し減少させると。
- 県立学校教育課長 そうです。入学の定員につきましては、基本的には中学生の生徒数と生徒のニーズ、地域の実情等を総合的に勘案しまして、中学生の数と定員の割合がほぼ 1 になるように毎年定員設定をして、希望する生徒は出来るだけ受け皿を作るというかたちで設定しております。
- 照屋委員 私立高校と通信制高校の新設が県内で増えて来ているという印象がありますけれども、そちらとの割合と言いますか、調整はどのように行われているのでしょうか。
- 県立学校教育課長 中学の在籍数から実質的に県立高校に来るだろうという数を算出する際には、毎年、私立の高校等に行く生徒を推測しておりまして、数年間の平均で 1,102 名という数を出しておりまして、約 1,100 名が私立高校に行くだろうと想定して設定しております。
- 玉城委員 小さなことですが、平成 31 年度は現在中高一貫校で学んでいる子供達が高等学校に入学する年で、開邦高等学校と球陽高等学校ですけれども、それを見ていると開邦高等学校は 1 クラス増になっています。これは生徒のニーズによるものかということなのですが、球陽高等学校の場合は特にそのような生徒のニーズが無

かったと捉えてよろしいでしょうか。

- 県立学校教育課長 平成 28 年度から両校とも中高一貫校を実施しておりまして、平成 31 年度にはその中学生が高校に進学するというかたちになります。開邦高校も球陽高校も推薦の段階或いは一般入試で倍率が非常に高い状況でございます。ただ、実情としまして、開邦高校は、学術探究科が5クラス、それから芸術科が1クラス、そして中学校が1クラス、学年で言いますと合計7クラスでして、大規模校の規模にはなっていません。球陽高校は高校7クラス、中学校1クラスということで、現在が適正規模になります。更に増設をしますと、どうしても大規模になってしまい、球陽高校につきましては大規模校になるというような状況もございまして、開邦高校は受け皿がまだあるということで増にしていますが、球陽高校はその点をしっかりと検討しながらという状況でございます。
- 喜友名委員 生徒のニーズを踏まえたクラス増ということで、特定の学校にはなると思うのですけれども、一般的に専門高校の農業科をはじめ、いわゆる産業教育を担う学校は変更がないのですけれども、この専門高校のニーズについては、志願希望したニーズで把握しているのか、或いは、産業界であるとかそういうようなところの意見も踏まえながら確定していつているのか、そこの辺りを少し教えていただきたいと思えます。
- 県立学校教育課長 現状としましては、やはり生徒のニーズを見る際には、高校の志願倍率を大きな目安のひとつとして捉えております。基本的にはそれを踏まえながら、地域の実情ということで色々な要望等、実は建設業の求人が多くなっていてなかなか担い手がないということもありましてそういった動きもございまして、そういった要望も踏まえながら、やはり、1番は入試倍率を踏まえながらバランスを考えて決定をしております。
- 喜友名委員 やはり、これからの沖縄の振興になっていくという意味では、そういう産業界の団体とのネットワークを構築するなどして、人材を求めている側のニーズと出来るだけマッチングするようなかたちが良いのかなということで質問しましたので、よろしくお願ひしたいと思えます。
- 照屋委員 専門学科がある産業高校ですが、かなり細かくコースが分かれていて、定員割れをしているコースもあると思うのですけれども、これから先、中学生の数がどんどん減っていつて、編成整備計画などでも見直しがされるかと思うのですけれども、教科を学ぶだけではなくて社会性を身につけて社会や大学に送り出さないといけなという視点に立つと、コースが細かく分かれていると、小さなコースの少人数での小さな人間関係で視野が狭くなって、なかなか社会性が育たないというような現場の教師の声も聞いたりするものですから、出来るだけ数合わせだけでなく、社会性という観点から子供達を全人格的に育てるにはどうしたらよいかという視点も必要な

のかなと思っているので、その辺も、編成整備をする際に研究していただければと思います。それと、中学校も小学校も、特別支援学級が増えてきています。ですから、特別支援学校の編成整備計画と高等学校の編成整備計画を総合的に見直す必要が出て来るのかなと思うのですけれども、高校併設の高等支援学校も設置されていますので、その辺も今後どうするのか気になるところです。検討していただければと思います。

- 県立学校教育課長 各学校によっては、やはり専門高校ですので、特色を出すということで、各学校とも教育課程等工夫しながら、色々取り組んでいるところではありますが、やはり、ご指摘のとおり学科によっては1クラスで編成されているということもあります。しかし、学校としては色々な行事の中で交流等を図りながら、共同の学習等も行いながら、出来るだけ交流が出来る場を設けているというように考えております。ご指摘の視点もいただきながら、しっかりとまたその方向で取り組んでいきたいと思っております。
- 教育長 学科改編という意味ではまた別の案件になりますね。今回は学科はそのまま、この中で定員の見直しを行っているものを報告したということです。学科の話になると、委員会に諮ることになりますか。
- 県立学校教育課長 はい。学科の改編は、学校から要望があがった際には、案を作成して、ご審議いただきます。

## 報告事項2 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果報告

### 【説明（義務教育課長）】

資料に基づき、平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について報告を行った。

### 【質疑等】

- 玉城委員 只今の報告にもありましたように、本県の児童生徒の学力は、これまでの学力向上推進プロジェクトを元にした「問いが生まれる授業づくり」がとても功を奏していて、小中とも良い傾向にあると思えました。先日の勉強会で頂いたグラフでも右肩上がりというのを拝見しまして、このことはやはり教師の授業改善とか、同時に子供達の学びに向きあう姿勢も改善されているのではないかなと捉えています。先日のことですが夏休み期間中の教師の授業づくり研修会に参加させていただきました。そうすると、北は国頭から宮古、八重山まで大勢の先生方が本当に熱気あふれる中で授業づくりを1日かけて一生懸命勉強しておられました。教師の意欲や熱意を肌で感じて、やはりその意欲や熱意が子供達の学力を押し上げる推進力になっているのだなと感じると同時に、これはまた県のこれまでの取組の成果の一つだなということも感じてまいりました。中学校も右肩上がりですので、これから徐々に全国平均に近づいていくのではないかなと期待しているところです。ところで、学力調査の傾向を見て

いますと、この間勉強会で拝見させていただきましたけれども、算数、数学、国語、理科においても、やはり文章読解力を要する問題が大変増えていて、文章を読み取る力とか、自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝える力とか、そういう言語活動の充実がかなり求められており、それは社会に出てからも、私達が生きていくうえでとても重要な力になると捉えています。本県も日々の授業づくりと、学校図書館を繋げた授業づくりが行われているかと思いますが、是非、各学校の図書館の学習情報センターとしての充実を図っていただくとともに、教科指導における学校図書館の計画的な活用とか内容の充実を図る取組に今後とも力を入れていただきたいと思います。これは要望でございます。

- 義務教育課長 是非、図書館の活用を活性化させて、子供達が自ら調べる態度を育てていきたいと思えます。学校支援訪問でもそのようなことを各学校に伝えて、取り組んでいきたいと思えます。
- 教育長 玉城委員のお話にあったように、読み取る力は昨今話題になっていますよね。人工知能の関係もありまして、読み取る力があるかどうかは今後の小学校、中学校で上に行く際に伸びるための重要なファクターになっているのではないかという意見もありますね。
- 玉城委員 本県は 12 月に新図書館もできますので、そのつながりで学校との連携をしていく中で、是非、子供達に読解力をつけるような対策を立てていくと良いのではないかと考えております。
- 上原委員 1つだけ教えてください。調査の内容に(2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査というのもございますけれども、特に変容して良くなってきたところ、それから玉城委員からもありましたように、読書との関係も多々出てくるだろうと思えますから、その辺もありましたら、2つ、3つ報告していただければありがたいと思えます。
- 義務教育課長 先程、玉城委員からもございましたが、子供達の学習に対する姿勢が変容してきたということで、質問紙の中でも、算数、数学の勉強が好きかどうかとか、大切かどうかという質問がありまして、それも、全国と大体同じくらいで、小学校においては県の方が上回っている状況であります。それから自己有用感に関する質問もありまして、今年度小学校は 81.8、中学校は 76.6 でした、平成 21 年度に比べると小学校は 9.9 ポイントプラス、中学校は 19.5 ポイントプラスと伸びており、自己有用感についてはとても良いところがあると思うような子供達が増えているということで捉えております。それから、人の役に立つ人間になりたいと思うという質問もございまして、平成 30 年度は小学校が 94.6、中学校 95.2 となっており、平成 21 年度と比較して小学校はプラス 2.0 ポイント、中学校はプラス 3.8 ポイント伸びております。特に中学校の方で意識が改革されていて、教科間の壁を取り払って全校体制で取り組

めば、委員がおっしゃるように伸びてくるのではないかと捉えております。

- 照屋委員 小学校も中学校もグラフを見る限り右肩上がり伸びてきているのは、やはり先生方の研修や、本庁から学校支援訪問で訪問されて授業づくりなどを支援されてきた賜だと思います。生徒もやれば出来るのだなということがうかがえるかと思えます。それには、上原委員が質問されたように、『「問い」が生まれる授業サポートガイド』にも載っています支持的風土づくり、学習環境が重要なのだろうなと思えます。先日、私も先生方の研修会に参加させていただきまして、授業づくりなども大切なのですけれども、その根底にある支持的風土づくり、学習環境が一番大切なものではないかと思っております。授業の他に、協同学習やピア・サポートとか、そこで仲間同士の繋がりを作ったり、支えあっていく、問題を解決する、乗り越えて成長するという風土が大切なことではないかと学びました。実際に、協同学習とかピア・サポート、P B I S（ポジティブ行動介入及び支援）などの取組をしている県外の学校の事例を聞いたのですけれども、この取組を行っている所では必然的に学力も15%から20%程度は向上したという事例があったと聞いていますので、その辺にも力を入れていくと良いのかなと思っております。それと、いつも勉強会で出てくるレディネスを整えるというのがありますよね、そこが一番大事かなと思っております。レディネスをどういうふうな手法で整えているのか、教師の力量に任せているのか、それとも組織的にやっているのかということ詳しく教えていただきたいと思っております。
- 義務教育課長 Webシステムを活用して到達度調査を2月に行うのですが、入力をして、自校の落ち込んだ領域などそういったものを確認して学校の方で取り組んでいくというかたちです。
- 照屋委員 その取組の手法を教えてください。
- 義務教育課長 問題を提供している教科もあります。
- 照屋委員 例えば、正答率30%未満とか無回答の生徒が気になるわけです。そこでレディネスを整えるという時にどのような指導をしているのか、ただ課題を与えるだけでは分からないかもしれないですよ、そういう細かいところを丁寧にしていくと良いのかなと思ったのですけれども、その方法をどのようにやっているのかなというところが一番気になりましたので。
- 義務教育課長 一応、学校独自で課題を見つけて、それに対してテストが終わって3学期の終わり頃や4月に補習指導などをやってはいます。そういったかたちで取り組んでいます。問題を提供していること教科もあると伺っております。
- 教育長 基本的には進級した時の4月の早い時期に、これまでを振り返るようなことを確認するようなことをしているのですよね。

- 義務教育課長 はい。復習のようなことをやっております。
- 照屋委員 イメージは分かるのですけれども、一人一人、子供達のタイプや学び方の違いもあるかと思imasので、この辺をどうされているのかなというのが気になります。
- 義務教育課長 今のところ、学校独自に任せているかと思imas。
- 照屋委員 その辺までは、学校訪問支援では行わないのですか。
- 義務教育課長 伺ったりしてやってはいるかと思imasが、詳しいことは今は資料を持ち合わせておりません。
- 照屋委員 後で教えていただければと思imas。
- 喜友名委員 調査の目的（1）の中で全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析しというところがあるのですが、先日の勉強会の中で、当該学年で学習した内容が児童生徒一人一人に身についたかを確認し、必要な支援を行うとともにということ課題のところにあげていたのですけれども、やはりなかなか学力面で自信を持ってないという子供達も多いのかなと思imasで、主体的に勉強することを積み上げていく、継続していくということが成果へ繋がっていくと思imasので、自己肯定感に繋がるような、自信を持てるような、そういう趣旨も踏まえて一人一人に関わっていくことも大事なのかなと思imas。
- 義務教育課長 たしかに、分かる喜びを子供達が経験すれば、どんどん自分で学んでいく姿勢が生まれると思imas。
- 喜友名委員 是非、そういう姿勢を育てて欲しいと思imasのでよろしくお願ひします。
- 松本委員 先程、玉城委員がおっしゃった読解力を上げるということは、色々な教科に関係していることなのですね。そういうこともあって、図書を充実させる、図書教育に力を入れるべきだというお話もあるのですけれども、読解力というのはただ本を読めば付くものではないと思imasのですね。やはり、読解力は読んでそれを学校の先生やお互いで話をするによって、色々な解釈があってそれを自分にフィードバックさせることを繰り返し行われて、初めて上がるものだと思imas。今の生活の中で見ますと、高学年になればなるほど、家に帰って携帯から目が離れないなど、そういうことに使う時間が非常に増えていっています。そういうものを、もう少し違う方向にもっていくようなことを考えながら、先生方も色々工夫されているかと思imasのですが、

図書を読むことに關しても、そういう時間の使い方と同時に読書をするのも非常に重要ではありますが、例えば、間違えて読んでそのままになってしまえば、何の意味なく、間違ったまま字を覚えてしまいます。それを間違って発表すると、そこは違うよと教えてもらうことができ、これはこう読むのだと早く修正することが出来ます。そういうようなことが色々あると思います。本を読む中では知らない漢字もいっぱい出てきますし、分かりにくい概念も出てくると思うのですね。そういうものを発表して、自分はこう思う、こう読むということをして初めてフィードバックがかかって、間違っていたのだ、こういうふうに考えてはいけなかったのだとなり、そういうことを積み重ねて読解力が付いてくるのだらうと思います。読みっぱなしでは決して本当の意味での読解力は付かないと思います。要するに家庭での時間の使い方も考えながら、フィードバックが上手くかけられるような作業をしていくことが非常に重要だと思います。そういうレベルが上がっていけば、こういう調査もぐんと上がっていくのではないかと思います。

- 義務教育課長 授業改善の中でも、アウトプットを大事にして練り合いの場をつくるというかたちで取り組んでいます。自分が学んだことを相手に伝える、相手に伝えることが出来たらやはり身に付いているという感覚になりますので、そういったところを工夫して取り入れているところです。
- 松本委員 非常に大事なことだと思います。
- 玉城委員 今回私が参加した研修会の中で、やはり1時間ごとの授業づくりと、並行読書ということで、図書と繋ぎながら授業をどう進めて文章を読む力をつけるかという学び合う時間、授業づくりがありました。そういうことを多くの先生方が今、直に学んで、学校現場で実践しているのだなと感じてまいりました。その講師の先生のお話の中で、とても印象に残ったのですが、実は沖縄県の教師の授業力のレベルはとても高くなっていて、全国の冊子の中に沖縄県の教師の実践例が載っていますよとお話なさっていて、大変嬉しく思いました。そういうように、先生方もかなり学び合いの中で良い実践をしてきておられるのだなと感じてまいりました。
- 松本委員 そういう評価があると非常に励みになりますよね。これがそのまま結果に現れていけば、非常に良いことだらうと思います。
- 玉城委員 そうですね。
- 松本委員 追加なのですが、よく新聞報道なんかを見ていると、沖縄県は学力が低いとか色々出てくるのですが、私が思うのは、その中でどういう努力がなされていて、そして本当に低いままなのか、下がっていつているのか、右肩上がりか上がっていつているのか、こういうことの方がよほど大切かなと思うのです。ですから、そういうところに目を向けてもらえるように、報道関係に発表をする時にも、

こういった努力が積み上がっていているということを強調していただくのが非常に大事なと思うのですね。

○ 義務教育課長 分かりました。ありがとうございます。

(6) 議案審議

議案第1号 学校職員の人事について（非公開）

議案第2号 学校職員の人事について（非公開）

議案第3号 学校職員の人事について（非公開）

(7) その他

特になし

(8) 閉会

平敷教育長が閉会を宣言した。